

ドイツ インフレーション 1923

田畑 裕司

約2年前になりますが、ドイツで発生したインフレーションに関連したカバーのロットを引き取らないといけないやむを得ない事情がありました。それならばこのロットをベースにして、郵便史のコレクションに発展させようと思ったのが収集のキッカケです。

さて、ドイツでは第一次世界大戦後の1923年の1年間で度重なる料金改定が実施されたため、「17」にも及ぶ料金期間が存在します。国内あて封書基本料金でみると、1923年1月1日で25マルクであったものが、同年12月31日には100,000,000,000マルク（10Pfenig）となっています。

第16料金期間の11月26日から同月30日（5日間）では、12月1日に料金を新通貨に変更するための暫定措置として、郵便局では切手の額面の4倍で販売されました。そして、12月1日からの換算レートは、1,000,000,000,000マルクが1 Rentenマルク（=0.01Pfenig）となり、旧通貨から新通貨までの移行期間は1か月間でした。

このコレクションでは、すべての料金期間における使用例について、使用年月日順に並べ、国内あてと外国あてに分けてから各料金種別を示しました。

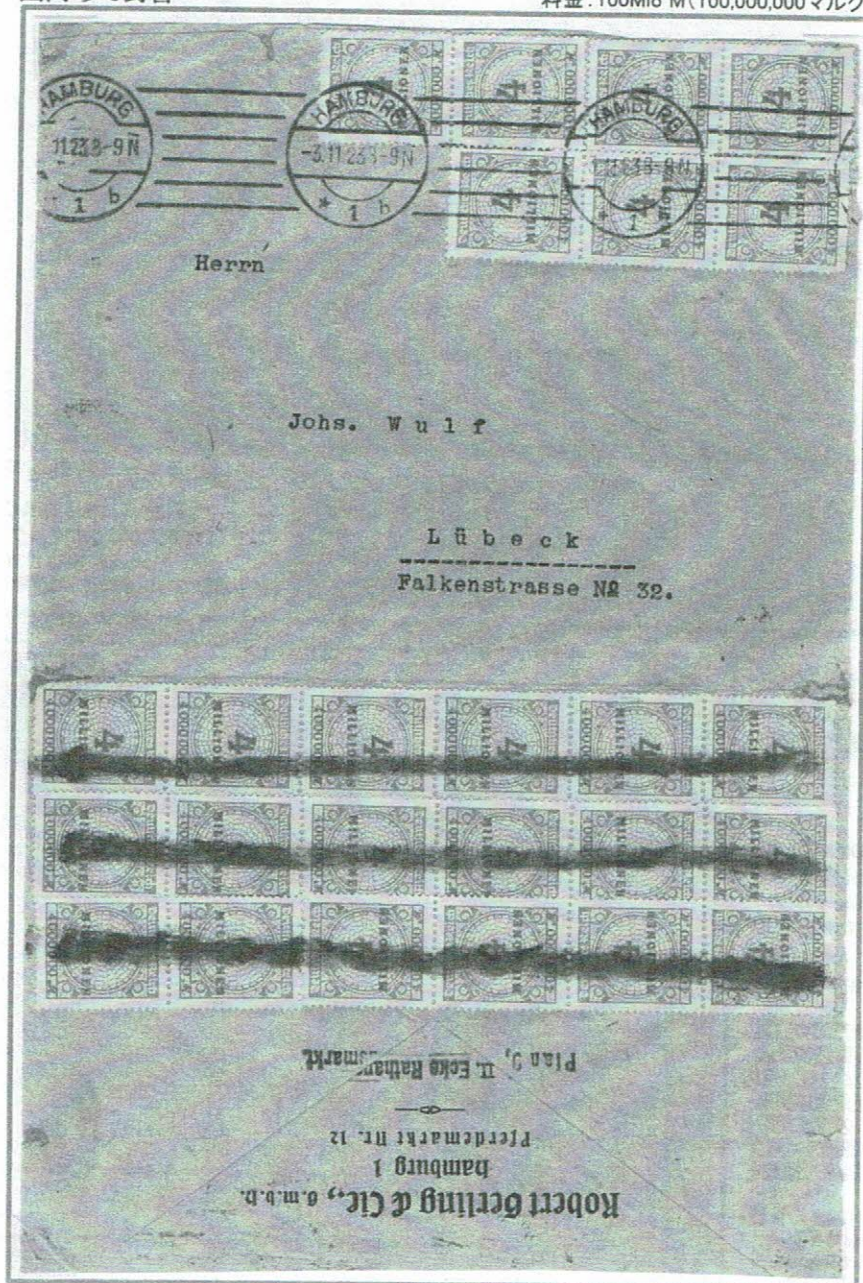
表 郵便料金の変遷

料金 期間	料金改正日	日数	国内あて封書基本料金 (20g)		外国あて封書基本料金 (20g)	
				マルク (M) 換算		マルク (M) 換算
1	1922. 12. 15	31日	25 M	25	80 M	80
2	1923. 1. 15	45日	50 M	50	150 M	150
3	3. 1	122日	100 M	100	300 M	300
4	7. 1	31日	300 M	300	800 M	800
5	8. 1	23日	1,000 M	1,000	3,000 M	3,000
6	8. 24	8日	20T M	20,000	60T M	60,000
7	9. 1	19日	75T M	75,000	200T M	200,000
8	9. 20	11日	250T M	250,000	750T M	750,000
9	10. 1	9日	2Mio M	2,000,000	6Mio M	6,000,000
10	10. 10	10日	5Mio M	5,000,000	15Mio M	15,000,000
11	10. 20	12日	10Mio M	10,000,000	30Mio M	30,000,000
12	11. 1	4日	100Mio M	100,000,000	200Mio M	200,000,000
13	11. 5	7日	1,000Mio M	1,000,000,000	4,000Mio M	4,000,000,000
14	11. 12	8日	10Mia M	10,000,000,000	40Mia M	40,000,000,000
15	11. 20	6日	20Mia M	20,000,000,000	80Mia M	80,000,000,000
16	11. 26	5日	80Mia M	80,000,000,000	320Mia M	320,000,000,000
17	12. 1	31日	10 Pf	100,000,000,000	30 Pf	300,000,000,000

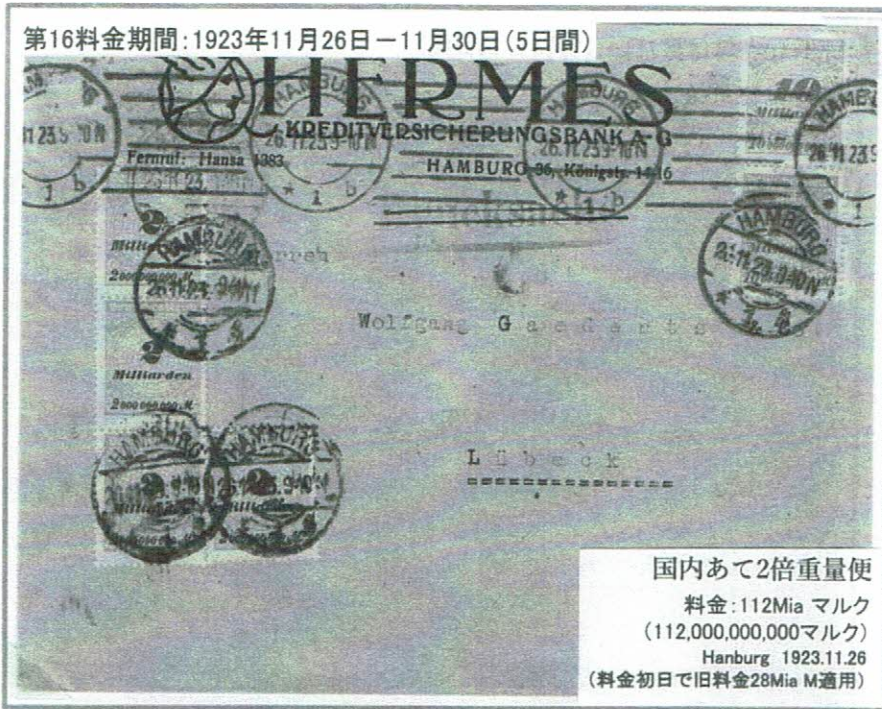
第12料金期間:1923年11月1日-11月4日(4日間)

国内あて封書

料金:100Mio M(100,000,000マルク)



Hamburg(機械印) 1923.11.3



国内あて書留

料金: 80Mia (基本)
+ 80Mia (書留)
= 160Mia マルク
(160,000,000,000M)

Hamburg 1923.11.28

第16料金期間の11月26日から同月30日(5日間)では、12月1日に料金を新通貨に変更するための暫定措置として、郵便局では切手の額面の4倍で販売された。
切手貼付額面の合計が「40Mia マルク」で、その4倍の「160Mia マルク」が郵便料金

26

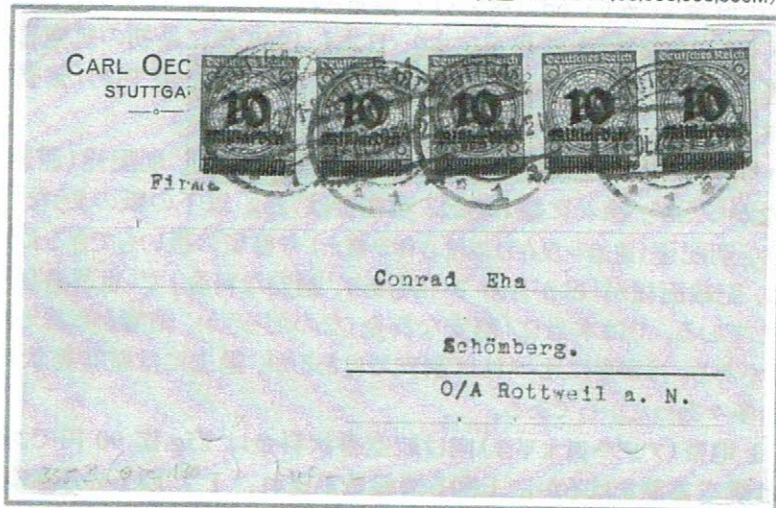


第17料金期間:1923年12月1日-12月31日(31日間)

旧通貨額面切手使用

国内あて葉書

料金: 50Mia M(50,000,000,000M)



Stuttgart 1923.12.7

新通貨額面切手使用

国内あて葉書

料金: 5Pf(50,000,000,000M)



Eberswalde 1923.12.8